

# 札幌市立新光小学校

(様式4-2：令和5年度 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる教員支援制度  
実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称：札幌らしい交通環境学習					
2. テーマ：私たちの暮らしを支える公共交通					
3. 実施教科：総合的な学習の時間					
4. 関連単元：社会科「市のうつりかわり」					
5. 実施単元数：17 時間					
6. 学年	3 年生	7. クラス数	3 学級	8. 生徒数	88 名
9. 実施内容 【活動のねらい】 本校の校区は、地下鉄駅を終着駅とするバス路線が多くある。バスは大切な地域住民の移動手段である一方で、若い世代を中心に公共交通離れが進んでおり、一家の自家用車保有台数が2台を超える家庭が少なくない。 札幌市内でのバスの乗車人数は減り続け、郊外では路線の減少も始まっている。今後利用者が減り続ければ、交通難民も増え、自動車を持たない市民にとっては大きな問題となることは明らかである。 札幌市の公共交通が抱えている問題点を関連付けて考える事で未来へ向けて自分たちの考えを深める学習を以下のように構築する。 1. 公共交通って何だろう。 2. 公共交通は札幌市民の暮らしをどう支えてきたのか。 3. 公共交通の現状はどうなっているのか。 4. バスのよさを体験。 5. 地下鉄のよさを体験。 6. 利用者、保護者、地域の人にインタビューする。 7. 調べたこと、考えたことをもとに公共交通が抱える問題に対しての解決策をまとめる。 8. まとめたものを「公共交通アイデアコンテスト」に応募する。					





# 3年生 [総合\_私たちのくらしを支える公共交通] (札幌市立新光小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM」教育に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

## ■ 実施例

実施校	札幌市立新光小学校	実施学級	3年2組 [男：13女：16 合計29名]
実施日	2023年12月18日(月)	指導者	丸尾 英紀
科目/単元名	総合「私たちのくらしを支える公共交通」[17時間扱い 本時14/17]		

## [指導計画]

### 1.教材にかかわって

#### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編]

#### ●第4章指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画の作成に当たっての配慮事項(5)

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

総合的な学習の時間では、各学校において指導計画を作成し、そこには内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、(中略)横断的・総合的な学習のとしての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。(中略)地域や学校、児童の実態に応じて内容を設定し、具体的な学習活動として展開することが求められる。(以下、略)

#### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

札幌らしい交通環境学習を推進していく上で、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場が連携をして取り組んできた。平成23年度から取り組みを行い、本実践が31本目の実践である。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も更なる連携体制を築いていく。

札幌市の公共交通の始まりは明治42年の馬車鉄道から始まる。その後、この馬車鉄道が民営の電気に替わり、この電車事業所を引き継いで市営交通が発足した。その後、昭和5年にはバス事業も始まり、札幌市民の重要な足としての役割を担ってきた。また、札幌市の発展に伴い昭和46年には地下鉄が開業。それ以降、地下鉄を軸としてバスが地下鉄を補うという札幌の公共交通機関網が確立された。

札幌市では、公共の交通機関を使って市街地の実に99%の場所にアクセスが可能である。しかし急激なモータリゼーションの影響を受け、バス路線のほとんどを維持しながらも乗車人数がどんどん減っていくという状況が続いていた。2022年のバス乗車延べ人数は7644万人余りとなっており、1986年を基準に考えると半分以下となっている。その一方で、市街地は規模を拡大しているために、路線延長に顕著な減少はない。さらに、同時期に自動車の保有台数は約3倍に増えている。自動車保有台数に影響を受ける形で、バスの乗車人数は減り続け、郊外では路線の減少も始まっている。今後利用者が減り続ければ、交通難民も増え、自動車を持たない市民にとっては大きな問題となることは明らかだ。路線を維持していくことが公共交通の役割である一方、利用者数が伸び悩めば路線の減少もとめられない。このような社会的ジレンマの解決の一助となるように、札幌市の公共交通機関のよさを実感することを通して、その重要性に迫る学習を構築する。

#### ③資料の活用


- 「まちの広がり」と公共交通機関の路線の広がり」スライド
- 札幌市の未来の姿が分かる統計集
- 札幌市のビジョン
- 交通網の広がりを表す地図
- 公共交通テキスト「みんなの乗り物～公共交通」
- 「交通期間毎のCO2排出量のグラフ」スライド
- 「バス利用者の推移のグラフ」スライド
- 中央バス新川営業所発のバス状況
- 2023年度 バス時刻表(夏・冬ダイヤ)



## 2. 本時の目標と学習展開

### ●目標

- 札幌市の過度な車利用の現状や公共交通の利用の減少が引き起こす問題について理解し、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考え、適切に表現している。【思考・判断・表現】

学習展開と児童の思考の流れ		教師のかかわり																					
<p>前時までに、子どもたちは札幌市の公共交通についての歴史と利用者が減少している現状について調べ、大まかにまとめている。</p>  <p>地下鉄の駅に、どこにでも行ける。乗っている間、自由。→時間を有効にできる。</p> <p>バス利用者の推移のグラフ</p>  <p>【2023 夏ダイヤ】 私たちが利用した北73は…</p> <table border="1"> <tr> <td>17</td> <td>05 17 29 37 47 56</td> <td>6時</td> <td>行きで3便、 帰りで2便も減っている。</td> <td>14</td> <td>05 18 34 47 56 01 08 (13) 18</td> <td>7時</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>01 20 25 30 39 00 12 25 48 58</td> <td>18時</td> <td>冬は増えるはずなのに…</td> <td>12</td> <td>01 20 25 30 39 00 12 25 48</td> <td>19時</td> </tr> <tr> <td></td> <td>08 28 40 58</td> <td>20時</td> <td>使いたい時間に使えなくなるのかもしれない。</td> <td></td> <td>00 15 40</td> <td>20時</td> </tr> </table> <p>【2023 冬ダイヤ】</p> <p>私たちが高校生(6年後)になる頃には、北73はなくなっちゃうのでは…。</p> <p>札幌市のバスをもっと利用してもらうためには、どうすればいいのだろう。</p>		17	05 17 29 37 47 56	6時	行きで3便、 帰りで2便も減っている。	14	05 18 34 47 56 01 08 (13) 18	7時	14	01 20 25 30 39 00 12 25 48 58	18時	冬は増えるはずなのに…	12	01 20 25 30 39 00 12 25 48	19時		08 28 40 58	20時	使いたい時間に使えなくなるのかもしれない。		00 15 40	20時	<p>○札幌市全体のバスの乗車人数が年々減ってきている事実と、自家用車が最もCO2を排出している事実の提示をあわせてすることで、子どもたちが「便利で環境にもいいバスなのに、利用者が減るのはなぜ？」という問いを生み出す。</p> <p>○中央バスが2023年の冬に大幅に減便を行った事実を提示し、問題意識を醸成する。また、北73の夏冬の時刻表を比較することで、「このままだと、自分たちは利用したくてもできなくなる。」と、自分事として問題を捉えることができるようにする。</p> <p>○子どもの考えを「バス・バス停」「バスのよさ」「バスの環境」という視点に分けて引き出し、板書に類分けする。</p> <p>○「誰のために」「なぜ、そう思ったのか」を、子どもに問い返し明らかにしていく。公共交通の現状と校外学習の生活経験、インタビュー内容と関連付けることで、子どもそれぞれの考えが根拠あるものにする。</p> <p>○「交通機関毎のCO2排出量」のグラフの確認と、GTとして自家用車を利用する人の声を取り上げる。バスの課題を明らかにするとともに、公共交通の利用者として自分はどうかあるべきか、未来の札幌市にとってどうしたらよいか考える場を構成する。</p>
17	05 17 29 37 47 56	6時	行きで3便、 帰りで2便も減っている。	14	05 18 34 47 56 01 08 (13) 18	7時																	
14	01 20 25 30 39 00 12 25 48 58	18時	冬は増えるはずなのに…	12	01 20 25 30 39 00 12 25 48	19時																	
	08 28 40 58	20時	使いたい時間に使えなくなるのかもしれない。		00 15 40	20時																	
<p><b>もっと使いやすく</b></p> <p>【バスをもっと!】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆長い短いつり革</li> <li>◆子ども専用スペース</li> <li>◆親子や高齢者に優しい座席拡大</li> <li>◆2段バス 1階→高齢者・家族 2階→大人・高校生</li> </ul> <p>【バス停をもっと!】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆バス停+お店 →待つ時間を楽しく</li> <li>◆お知らせバス停 →到着までO駅</li> </ul>	<p>生活経験 既習内容</p> 	<p><b>もっとよさ広めて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆バスフェスティバル →家族全員で</li> <li>◆スタンプラリーゲーム →子どもが楽しみながら、学ぶ。</li> </ul>	<p><b>もっと便利に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆乗れば乗るほどエコポイントサピカ</li> <li>◆土日使うとお得ルール</li> <li>◆ループ化して、ぐるぐる →全自動化</li> <li>◆バス専用レーン →よりスムーズに</li> </ul>																				
<p>交通期間毎のCO2排出量グラフ</p>  <p>1人1km乗車のために排出するCO2(g)</p>	<p>車だと通勤時間が短くできる。遅くまで仕事している。→帰るころにはバスがない。</p> 	<p>利用者として 自分たちはどうすれば</p> <p>家の車を少し我慢して公共交通を</p> <p>公共交通利用で もっと環境に優しく</p>																					
<p>よさをもっと伝えよう。もっと便利にしよう。もっと使おう。一人の利用者として、バスの未来について考えていこう。</p> <p>○学習の振り返りを行う。</p>																							

### ●評価

- 札幌市の過度な車利用の現状や公共交通の利用の減少が引き起こす問題について理解し、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考え、適切に表現しているかどうか。【思考・判断・表現】



3. 単元に関わって

目標	【知識・技能】			【思考・判断・表現】			【主体的に取り組む態度】	
学習展開	<p>① 課題解決のために、インターネットやインタビューなどの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・工夫してプレゼンテーションソフトにまとめたりしている。</p> <p>② 札幌市には、四つの公共交通機関があり、それぞれに良さや特色・歴史について理解している。</p> <p>③ バスや他の公共交通の良さや今後のあり方について、家族への提案にまとめ、発信することができる。</p>	<p>知る</p> <p>公共交通って何だろう?</p>  <p>公共交通の種類 札幌市の公共交通 公共交通があることのよさを考えてみよう。</p>	<p>公共交通は札幌市民の暮らしをどう支えてきた?</p>  <p>馬車鉄道⇒市電⇒地下鉄 バスの歴史 公共交通とまちの広がり</p>	<p>公共交通の現状は?</p>  <p>バスの利用者が減少。 多額の補助金を当てて路線を維持している。 お金の問題だけではなく、運転手不足も深刻に! 路線が減少! 暮らしを支えてきた公共交通を今度は自分たちが支える番だ!</p>	<p>体験する</p> <p>バスのよさを体験!!</p>  <p>新光の周りを走っているのは中央バスだ 北24条まで行ってみよう。 古明地先生に乗り方を聞いてみよう。 乗る際のマナーを調べてみよう。</p>	<p>体験する</p> <p>地下鉄のよさを体験!</p>  <p>北24条から麻生まで乗ってみよう。 校長先生に乗り方を聞いてみよう。 乗る際のマナーを調べてみよう。</p>	<p>表現する</p> <p>インタビュー活動</p>  <p>利用者にインタビュー 保護者にインタビュー 地域の方にインタビュー ↓ ↓ 車を運転しない人にとっては大切な移動手段。 自分たちが高校生になった時も活用。</p>	<p>表現する</p> <p>発表する</p>  <p>実際に路線が減少! 札幌市の自慢だった公共交通が不便になる…。 暮らしを支えてきた公共交通を今度は自分たちが支える番だ! に対する自分の考えを組み立てる。 Chromebookで考えをまとめる</p> <p>運転手を増やすアイデア 利用者を増やすアイデア お年寄りが利用しやすい乗り物アイデア カーボンゼロアイデア</p> <p>12月27日</p>
外部社会人基盤活用	副読本「みんなの乗り物公共交通」を活用	副読本「みんなの乗り物公共交通」を活用	<p>新聞記事 まなぶん「学bel」を活用 DEC 大井さん(講師)来校 現状を教えてください</p> 	中央バス(路線バス)	市営地下鉄(南北線)	札幌市役所都市交通課 後藤さん来校 対話	DEC 大井さん(講師)オンライン コンテストのねらい	
費用			MM 財団補助費(講師代)	MM 財団補助費活用	MM 財団補助費活用	MM 財団補助費活用	MM 財団補助費活用	
時数	①	② ③	④⑤⑥	⑦⑧	⑨⑩	⑪⑫	⑬⑭ ⑮⑯⑰	
目安	11月27日の週			12月4日の週		12月11日の週		12月18日の週